

1. 家政学を家庭生活を維持向上させる政策、技術学であると考えた私の説から、社会の進展につれて従来の自然科学的技術中心の研究から社会科学的技術中心の研究に移行する必要性を検討する。

2. 思索、論理的方法による。

3. (イ) 社会科学的技術、技術はある目的を達する手段で、そのために科学の原理を適用することである。ある目的達成のためには、単一の法則の適用のみでなく、各方面からの法則が適用されねばならない。技術は適応性をもたねばならない。時により所によってそれに適した法則の適用が必要である。この点で技術には当然自然科学的なものと、社会科学的なものとは、一緒に含まれていなければならないが、時により所によってそのどちらかが主になるだけである。

(ロ) 家政学における必要性、幸福な家庭生活を営むのに昔は個々人の努力によってなされたが、現在は昔のように生活物資を自給自足することは不可能であり、営々として貯蓄したおかねも貨幣価値の下落によって、無価値に近いものにもなる。個々の家庭経済の合理化にも限度があり、物価の高騰によって家庭生活が困難になることに家政学はあずかり知らないでよいのだろうか。都会の空気や上下水、交通難の問題等われわれの生活を脅かす問題の解決は家政学には無縁なのか。社会の進歩につれて家庭生活にも社会科学的技術がますます必要になってくる。